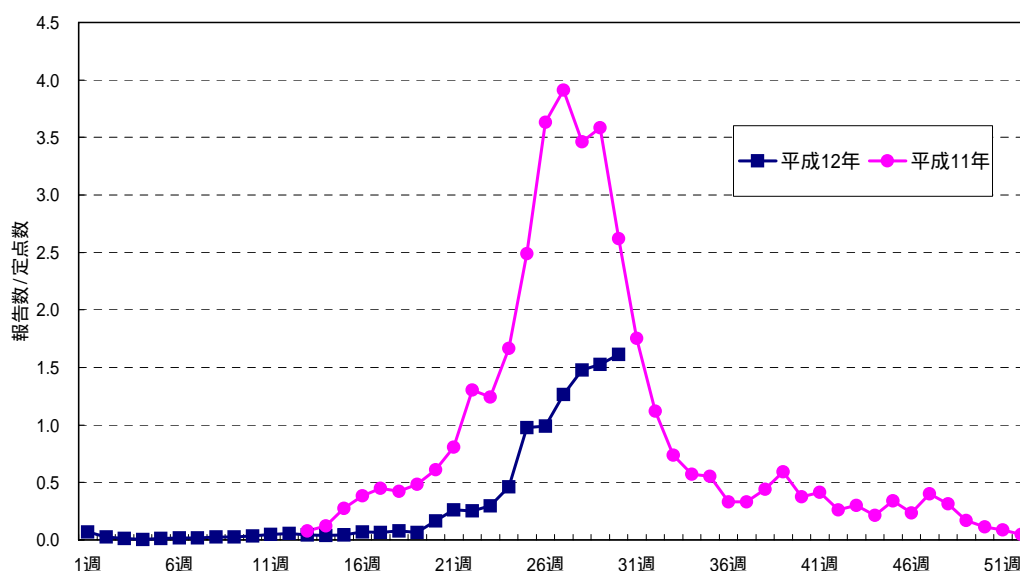


愛知県感染症情報

平成 12 年第 30 週（ 7 月第 4 週 ）

（コメント）

手足口病が依然として流行中です。



手足口病(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)

（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ 3 歳男子、マイコプラズマ肺炎 抗体価 1 2 8 0 倍。
（一宮市 後藤小児科）
- ・ 9 ヶ月の帯状疱疹（ 2 ヶ月時に水痘，女兒 ）
（一宮市 平谷小児科）
- ・ 病原性大腸菌性腸炎 0 歳 4 ヶ月女、O - 1 2 5 検出
9 歳女、O - 1 検出
2 0 歳女、O - 1 8 検出

ヘルパンギーナは尚、多発中です

- （尾西市 城後小児科）
- ・ 今回は水痘が少し多く見られました
（江南市 みやぐちこどもクリニック）
- ・ ヘルパンギーナ多い
（岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック）

- ・ 口唇ヘルペス 20歳男
カンピロバクター 27歳女
(師勝町 師勝クリニック)
- 尾張東部地区
 - ・ 麻疹1例あり 3歳男 (ワクチン未接種)
ヘルパンギーナ流行継続
手足口病はまだ散発です
水痘が再び増加傾向です
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
 - ・ 流行性耳下腺炎多し。16例中1例(5歳男)はワクチン接種済みでした
乳幼児でもクループ症候群(ウイルス性)も多くみられます
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
 - ・ 今週は感染性胃腸炎、ヘルパンギーナもみられませんでした
(春日井市 かちがわ北病院)
 - ・ 7日以上発熱が続くウイルス性脳炎があります(症例)
(小牧市 小牧市民病院)
 - ・ 流行性耳下腺炎 10歳男 (予防注射してある子です)
(小牧市 鈴木小児科)
 - ・ カポジ水痘様発疹症* 全身に
(性器ヘルペスウイルス感染症のコメント)
(春日井市タカマ皮膚科)

* カポジ水痘様発疹症

【症状】 湿疹、特にアトピー性皮膚炎の乳幼児に、突然高熱とともに湿疹病変局面に、紅量を有する小水疱・水疱が多数集簇性に発生、膿疱化・潰瘍化し、所属リンパ節も有痛性に腫脹する。高温の他、脱水症状・主要臓器(肝・副腎など)に壊死性病巣を形成して死亡することもある。

【病因】 単純性疱疹ウイルスの初感染であることが多い。湿疹児が大多数であり、成人にもまれに発症するが、すべて湿疹患者といつてよい。(出典 「小皮膚科書」(株)金芳堂 第2版第5刷)

- 西三河地区
 - ・ マイコプラズマ肺炎 5歳女
サルモネラ腸炎 3歳女
カンピロバクター腸炎 3歳女

慢性気管支炎 2歳男 パラインフルエンザ3型ウィルス感染症
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)

- ・ 病原大腸菌 V T (-) 11歳男
(岡崎市 医療法人深田小児科)
- ・ サルモネラ O 9 群 9ヶ月男 (母が2週間前にサルモネラ)
サルモネラ O 4 群 7歳女
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ 病原性大腸菌 O-18 (+)、V T 1、V T 2 (-)
病原性大腸菌 O-1 (+)、V T 1、V T 2 (-)
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ カンピロバクター 7ヶ月女
(岡崎市 医療法人川島小児科水野医院)

● 東三河地区

- ・ 無菌性髄膜炎の子が目立つ
(蒲郡市 蒲郡市民病院)
- ・ 3ヶ月女児百日咳入院中 (本児は生後2ヶ月に突発疹罹患)
(豊橋市 富田小児科)
- ・ サルモネラ O 9 4歳女2名
手足口病が増えてきました
ムンプス (母親) 1名 子供から感染
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
- ・ 夏休みに入って、手足口病・ヘルパンギーナなどの感染症が増え
てきました
伝染性膿痂疹が暑さと共に増加傾向を認めます
(豊橋市 あずまだこどもクリニック)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌保有者1名

- ・ 足助保健所から報告の42歳女 7/24初診、7/28診定。
菌型は、O-157 VT2 (+)

(全数把握の4類感染症の発生状況)

- ・ 急性ウィルス性肝炎 (A型) 4名

第28週 (7月10日~7月16日) の4類感染症の全国状況

手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱など夏季の流行疾患の定点当たり報告数が例年の同時期よりやや多くなっている。手足口病は過去

10 年間と比較すると、28 週の定点当たり報告数としては 1995 年の大流行に次ぎ多くなっている。定点当たり報告数が多いのは、奈良県（19.4）、和歌山県（17.0）、兵庫県（10.8）などの近畿地方、福岡県（12.2）、佐賀県（11.4）などの北九州地方と、山形県（15.4）、群馬県（13.4）、埼玉県（11.0）などとなっている。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は過去 10 年間で最も多くなっている。ヘルパンギーナの流行ピークは例年 7 月中の 27 ～ 29 週ごろで、患者報告数の増加率が減少していることから、今年の流行もそろそろピークに達するものと考えられる。定点当たりの患者報告数が 10 を超えているのは宮城、千葉、新潟、埼玉、神奈川、福島などの各県である。咽頭結膜熱は和歌山県で定点当たり報告数が多い。麻疹の患者報告数は依然大阪で多い。流行性角結膜炎は定点当たり報告数が例年の同時期よりかなり多く、沖縄県と奈良県で定点当たり 4.1、その他徳島、茨城、愛媛、などの各県で報告が多くなっている

第 29 週（7 月 17 日～7 月 23 日）の 4 類感染症の全国状況

手足口病とヘルパンギーナの定点当たり報告数は、例年の同時期よりやや多くなっているが、前週より減少した。手足口病は過去 10 年間と比較すると、29 週の定点当たり報告数としては 1995 年の流行に次ぎ多くなっている。定点当たり報告数が多いのは、山形県（15.5）、奈良県（13.2）、和歌山県（11.6）、兵庫県（10.5）、大分県（10.2）などとなっている。ヘルパンギーナは過去 10 年間で最大の流行曲線を描いている。ヘルパンギーナの流行ピークは例年 7 月中の 27 ～ 29 週ごろで、今年の流行もほぼピークに達したものと考えられる。定点当たりの患者報告数が 10 を超えているのは宮城、新潟、神奈川、福島、千葉などの各県である。咽頭結膜熱は例年の同時期に比べかなり定点当たり報告数が多く、第 29 週の定点当たり報告数としては過去 10 年間で最大となっており、とくに和歌山県で定点当たり報告数 3.0 と多くなっている。麻疹の患者報告数は依然大阪で多い。流行性角結膜炎の定点当たり報告数が多いのは、愛媛県（4.3）、沖縄県（3.3）、茨城県（3.1）などの各県である

（Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報）